

さいたま市長5月定例記者会見

平成18年5月18日（木曜日）

午後1時30分開会

○ 進 行 記者クラブの皆さん、こんにちは。ただいまから定例記者会見を始めさせていただきます。

それでは、幹事社の産経新聞さん、進行方よろしくお願いたします。

○ 産経新聞 5月の幹事社であります産経新聞と申します。よろしくお願いたします。それでは、早速ですが、本日の定例記者会見の内容につきまして、相川市長から説明お願いたします。

○ 市 長 皆さんこんにちは。それでは、定例記者会見を始めさせていただきます。本日は、発表議題が2項目ありまして、まず第1点目、マニフェスト工程表の取組状況と実績評価の公表についてお話を申し上げます。

事務方より事前レクで既にご説明をさせていただいておりますが、昨年9月に策定をいたしましたマニフェスト工程表の計画初年度を終え、また、市長就任2年目を迎えるに当たりまして、「工程表」の各事業の取り組み状況や成果をもとに、実績評価を行い、その結果を取りまとめました。

実績評価は127の具体策、162事業のすべてについて、平成18年3月末日時点での取り組み状況と成果に基づき、「実施済・達成」を「星三つ」、「順調に推移」を「星二つ」、「遅延・課題あり」を「星一つ」、「未着手」を「バー」という4段階で実施をいたしました。

なお、評価は、都市経営戦略会議で行ったものでございます。

実績評価の結果ですが、「実施済・達成」、これが15事業、9%と「順調に推移」（135事業、83%）を合わせますと92%に達しており、順調なスタートが切れているものと自負をしております。

これは、目標期間別、分野別で見ても同様で、全体としてバランスよく順調に進捗をしております。

なお、「遅延・課題あり」の事業も一部見られ、その中には例えば用地買収のおくれなど相手があつて遅延をしている事業もありますが、いずれにいたしましても、今後とも課題解決に全力を挙げ、すべての事業について着実な実施に努めてまいります。

次に、この1年の主な成果ですが、この「マニフェスト工程表」に基づき、さまざまな新たな取り組みに着手してきましたが、早くも目に見える形で成果があらわれ始めているものもあり、大きな手ごたえを感じております。その中でも、主要なものに絞って簡単にご説明をいたします。

まず、(1)の都市経営戦略会議の設置です。この設置のねらいは、トップマネジメントを強化をして、経営感覚とスピード感のある市政を実現をしていくことではありますが、昨年5月末の会議の立ち上げ以来、28回の会議を開催をいたしました。

本格的な企業誘致活動の開始、外国企業誘致のための構造改革特区の提案、危機管理監の設置を初めとした危機管理体制の強化、AED（自動体外式除細動器）の普及に向けた八都県市首脳会議への緊急提案と本市公共施設等への重点的な配備、全小学校などへの警備員の配置、放課後児童クラブへの大幅な助成拡大など、思い切った施策をスピーディーに意思決定をし、実行したところであります。

また、ここでの議論を通じて、私が常々述べている経営感覚とスピード感が職員の間にも浸透してきておりまして、職員の意識改革も進んできたと感じています。

次に、(5)の企業誘致でございます。昨年7月に、企業誘致の専任部署である産業展開推進室を設置をし、3年間で30社を目標とした本格的な企業誘致を開始をいたしました。

立地企業に最大10億円を補助する産業立地推進補助制度なども創設をし、戦略的な企業誘致活動を展開いたしました。

その結果、カルソニックカンセイ株式会社を初めとする7社の立地が決定をいたしました。なお、その後2社の立地が決定をし、現時点で9社の誘致が決定をしております。

激しい都市間競争を勝ち抜いていくためにも、将来にわたる本市の産業経済基盤や財政基盤を築くためにも、これらの企業の立地が実現したことは大きな成果でありまして、引き続き全力を挙げて企業誘致活動を展開をしてまいります。

次に、(9)のAED（自動体外式除細動器）の普及に向けた取り組みであります。市民の命を守る救急救命体制を充実・強化をしていくため、昨年

秋の八都県市首脳会議でAEDの普及に向けた取り組みを首都圏で推進をしていくことを緊急提案をし、各首脳の賛同・同意を得ました。

その後、八都県市共同でAEDの普及啓発に向けた基本方針及びマニュアルを作成をして、先日15日の首脳会議で報告がなされ、これらをもとにAEDの普及啓発に向けた取り組みをさらに推進をしていくこととなりました。

本市でも小・中学校や公共施設を中心に、本年度約400台のAEDを重点配置をしていくこととしておりまして、既に4月には全小・中学校、消防署などで221台を設置をしております。このような本市の提案や取り組みが契機となり、多くの地方公共団体や民間施設でもAEDを設置する動きが広まってきております。

先日の首脳会議でも新たに二つの緊急提案を行ったところですが、首都圏の主要な一員としての立場や視点から、引き続き積極的な提案や取り組みを実施をしております。

次に、(11)及び(12)の子育て支援の取り組みであります。「子育てするならさいたま市」をキャッチフレーズに、さまざまな子育て支援策を講じてきましたが、平成17年度も「子育て日本一の都市」を目指し、保育所の整備、幼稚園・保育園の一体施設の整備、地域子育て支援センターの開設、児童虐待の根絶を図るための24時間虐待電話相談事業や子ども虐待予防家庭訪問事業などの取り組みを実施いたしました。

さらに、学童保育待機児童の解消を図るため、平成18年度から民間運営者への助成を大幅に拡充をすることといたしました。

次に、(13)の小学校などへの警備員の配置であります。児童を対象とした凶悪事件の多発による市民の不安の高まりを受け、本年度開始予定のスケジュールを前倒しをして、1月から市立の全小学校・養護学校に警備員を配置をいたしました。

これにより、不審者情報の件数が大幅に減少して、多くの市民の皆様から歓迎・感謝の声をいただいております。

改めて、思い切った決断、スピードの重要性を感じたところであります。引き続き、市民の皆様のニーズを的確に把握をし、本市の将来を見据えた上で、思い切った施策をスピーディーに実行してまいります。

最後に、マニフェストの実現を早めるものなど5事業について「行動計画」の更新を行いました。

また、更新などの内容を取り込んだ「マニフェスト工程表・平成18年度版」を作成いたしましたので、あわせて配付をしております。

今後は、実績評価の結果を予算等へ反映させるとともに、引き続き、マニフェスト工程表の実現を市政の最重要課題と位置づけ、各事業の着実な実施に努め、理想都市の実現に邁進をしまいる所存でございます。

続きまして、2、「さいたまシティカップ2006」を開催いたします。本年はご承知のとおりワールドカップイヤーでありますことから、世界のサッカー界が非常に過密な日程でありまして、Jリーグのスケジュールにおいても、国際親善試合の開催可能日が7月末から8月上旬のわずかな期間に限られております。

このような状況の中、既に浦和レッズは、本年1月にパートナーシップを締結をしたドイツの名門、FCバイエルン・ミュンヘンとの親善試合を決定をしており、両クラブのご理解とご協力のもと、この試合を「さいたまシティカップ」として開催することが決定いたしました。

開催日は、7月31日（月）午後7時キックオフ。会場は、埼玉スタジアム2002であります。

また、トップチームの試合に先立ち、午後4時半から両チームのOBによるオールスター戦も行われますので、ぜひこの時間からご観戦をいただきたいというふうに思っています。

ドイツワールドカップの興奮も冷めやらぬ中、さいたま市をホームタウンとする浦和レッズとドイツの雄FCバイエルン・ミュンヘンとの熱戦を期待をするとともに、多くの市民の方々にご観戦をいただき、夢や感動を味わっていただけることを願っております。

話題は以上ですが、5月後半のイベントのパンフレットを用意をさせていただきました。「ばらまつり」、「大宮薪能」、「浦和うなぎまつり」、「さいたまさつきまつり」とさまざまなイベントが開催されますので、取材方をよろしく願いいたします。

とりあえず発表議題については以上です。

○ 産経新聞

それでは、発表議題についてご質問を願います。

○ 読売新聞 マニフェストの工程表なんですけども、任期4年あるうちの1年目ということで、どうしても報告の中にも、まず1年目なので、協議を始めるだとか、あと市長のさいたま市長としての1期目からの継続事業もあって、どうしても順調というものがふえたと思うんですね。そういう印象もあるんですが、これから2年目、3年目の実現という段階で、予算の面もあるし、いろいろ大変な面も出てくると思うんですね。その辺の1年目は順調ということですけども、今後の見通しだとか市長としての課題、何かお考えがあったら教えてもらえますか。

○ 市長 いずれにしても、今ご指摘のように1年目ということの中で、ご承知のように3段階に分かれていますね。すぐやりますと、4年以内にやります、4年以内にスタートをします、この三つの段階に分かれているわけでありまして、それぞれそういう4年以内にやるもの、すぐにやるもの等々に分けての評価というか分類もですね、今度の市報の6月号にですね、詳細に記載をさせていただきますので、それをごらんいただくとよくわかるというふうに思っておるんですが、いずれにしてもマニフェストというものがですね、基本的にはさいたま市総合振興計画ですね、これらが一応大きな下敷きに当然なっているわけですけども、その下敷きである総合振興計画をつくったのが第1期目の市長のときですから、それから大きく逸脱をすとか、そういったことではないわけです。そういった意味においては、準備を進めてきたもの、またそういった準備の中で順調という評価がかなり多くなってきているのは事実です。

すぐやりますは、やはり2年からせいぜい3年以内でできて、4年以内にやりますに重点が今度は移ってくるということになるかというふうに思いますが、いずれにしてもこういうふうな高い評価がいただけるように、しっかり工程表を見据えながら頑張っていきたい。それについても19年度の予算、こういったものにきっちりその辺は反映をさせていく、こういう必要が出てくるだろうというふうに考えています。

○ 読売新聞 順調という項目の中にも、市民債、市民公募債ですか、適当な事業がないので、最初の予定だと今年度発行予定ということでしたが、しばらく協議を続けるという。公募債については、どうなんでしょうか、今後発行見通しというのか、このまましりすぼみになってしまうのか、どうなんでしょうか。

○ 市長 具体的に言えばですね、例えば一番理解が得られやすかったのは、今西区につくっている病院ですよ、病院の建設。こんなようなものを市民公募債というような格好でお願いするのが一番理解が得やすかったんだろうなというふうには思っていますけれども、この辺についてはですね、この病院についてはいろんないきさつ、それから用地の取得がなかなかスムーズにいかなかったとかいろんなことがありましてですね、公募債に結びつけることはできませんでした。

今後ですね、やはり調査、検討の結果、発行に向けて基準をつくって、そしてまた基準を作成する必要が生じたので、事業の取り組みをより具体的に、より具体化しようということで、この市民参加型ミニ公募債の推進ということをこれからも適当な事業を見つけてですね、進めていきたいなというふうに思っています。

社会構造的にですね、いろんな意味で金利がね、非常にまだ安いという状況の中で、そしてまた結構年配の方が、いわゆるたんす預金ですね、こういったものを結構お持ちだということがいろいろな調査で出ておりますけれども、そういった方々も、今申し上げたような例えば病院でありますとか、そういうふうなことに参加をすることによってね、自分も市政に、もしくはそういういろんな行政にですね、参画をして、そして自分たちも何らかの貢献、寄与ができるんだということに関しては非常に皆さん高い意識をお持ちだろうというふうに思っておりますので、そういったものに合致するような適当な事業をですね、また考えて、ぜひこれはやっていきたいなというふうに思っています。

○ 読売新聞 シティカップの方なんですが、本番の前段で行われるOB戦なんですけども、サッカーちょっと詳しくないんで、申しわけないんですが、OBというかどうかという人が出る予定なんですか。

○ 市長 まだですね、出場者は決まっています。やはりかつて所属していたOBたちで構成するチームによる親善試合、これをトップチームの試合に先立って開催しようと思っております、レッズにおきましては三菱時代も含めた往年の名プレイヤーが登場すると聞いておまして、FCバイエルンにおいては70年代に欧州チャンピオンズカップ3連覇を達成したころのスーパースターが来日するかもしれないということで、私も含め古くからのサッカー

ファンは、かえってこのOB戦の方がおもしろいんじゃないかなというふうな気も実はしております。

現在のところ、そういうわけでまだ出場者名が決まっていないんですね。やはりそういったOBの方の中でも世界のサッカー界で活躍している方、大勢おられますんでね。ワールドカップが終わるまで、ちょっと何とも言えないというのが現状ですけれども、いずれにしても確定次第リリースをしてみたいと思います。

やっぱりシティカップの観戦チケットでOB戦もごらんいただけますから、お得じゃないかなというふうに思っています。両チームで活躍した主な有名選手ということになりますと、バイエルンの方はですね、皇帝と言われたフランツ・ベッケンバウアー、それからゲルト・ミュラー、ゼップ・マイヤー、カール・ハインツ・ルンメニゲ、ローター・マテウスと、きら星のごとくですね、おられるわけですね。特にベッケンバウアーさんは、一回来ていますね、このさいたま市役所に。今から十三、四年前ですかね、市長室の方に、ちょうどJリーグが始まるころ、始まった前後ですかね、お見えになって、サインボールを譲ってくれましたけれども、そんな関係もあってですね、ぜひ来てくれるといいなというふうに思っています。レッズの方は、皆さんご承知のとおり、森孝慈とか、落合弘とか、藤口光紀、福田正博、井原正巳と、この辺が主なOBかなというふうに思っています。

○テレビ埼玉      それと関連してなんですが、選手の方なんですけれども、去年ロナウジーニョが残念ながら来なかったんですけども、ことしこのバイエルン、オリヴァー・カーンとかは大丈夫そうですか。

○市 長      カーンはどうだろうね。引退を言っちゃっているからね。もう最後に来てくればね。特に日韓のワールドカップのときのカーンのね、あれはすごかったですもんね。ぜひ見たいよね、あの姿ね。これはぜひいい人に来てもらうように要請は続けます。

いずれにしても、レッズと姉妹とは言わんが、レッズとですね、パートナーシップを結んでいるわけで、このうちのユニホームの色もそっくりなんですけれども、そういうパートナーシップを結んでいるという中で、なるべくいい選手をですね、大勢出していただくようお願いは当然してまいります。

○産経新聞      OB戦も90分やるんですか。

- 市長            これ90分やるかな。ちょっと待って。90分やるか、どうなの。
- 事務局            現在調整している段階ですが、まだ正確には取り決めはされておられません。今後になろうと思います。よろしくお願いします。
- 市長            かなり年配のOBについては、ちょっと無理かもしれませんね。35分とか30分、ハーフになると下がりますわね。これみんな顔見るだけでうれしくなっちゃうからいいんじゃないですかね。
- 産経新聞            あと1点、マニフェストに関係するんですけども、こういった評価をいただいたという、市長の意識で自己採点して、この1年を振り返って。わかりやすいんで、点数で言うだけだと。
- 市長            そうですね。特にこの1年はマニフェストの実施、これは市政にきっちり生かしていこうということで、それが一番大きなポイントでしたから。それを考えると、このマニフェストの「できました」、「順調です」というのが92%なんで、私自身も92点いただけたらうれしいなというふうに思っています。
- 日本経済新聞            これやっぱりマニフェストにこの127項目という、ひとつ重点の項目を挙げたからこそできたことというんですか、もともと普通の行政としてやるべきことじゃなくてですね、非常にハードルは高かったんですけども、このマニフェストに載つけたからこそ話が進んだことというのは、大体どんなところが。やっぱりこの主要な項目というところが。
- 市長            これも先ほど申し上げたようにですね、幾つか項目を申し上げました。やはりもちろん先ほど申し上げた総合振興計画というのがその下敷きになっていますけれども、その中でもですね、総合振興計画はもう全体の計画ですから、その中からある意味では127を選んだというかね、全部が全部書いてあるわけじゃなくて、選んだというか、そういうチョイスをしましたので、それが順調に進んでいるということだというふうに思っていますけども。
- 埼玉新聞            評価の方法が、今各所管でも自己評価を設けてですね、絶えず……いかにされているのかということで、内部評価という部分で、この高い評価が出ると甘いんじゃないかとか、そのような指摘があるかと思うんですけれども、今後のやはり評価の方法については、どういう形で継続していかれるということでしょうか。
- 市長            そうですね。マニフェスト工程表の各事業の取り組み状況と成果をもとに

ですね、これ実績評価をしたもので、事業ごとに実施済・達成、順調に推移、遅延・課題あり、未着手、4段階で、まずですね、所管部局で自己評価を行ったと。それで、その評価に基づいて5月8日の都市経営戦略会議で議論をして、最終的な評価を決定をしたということであります。都市経営戦略会議のメンバー9名、かなり多角的な視点から議論をやりましたのでですね、評価の内容、方法等については、このやり方で当分いいんではないかなというふうに思っています。

○ 産経新聞

よろしいでしょうか。

それでは、幹事社質問を伺いたいというふうに思いますけれども、まず1点目ですが、埼玉高速鉄道についてですけれども、イオンの大型S Cのオープン以来、週末を中心に大変にぎわいを見せております。埼玉高速鉄道の収益改善にどの程度の効果が得られるのか、見通しをお伺いいたします。

また、先月の定例会見の席では、杉野社長の続投を要請したとの報道でありました。その件に関し、市長はどのようにお考えでしょうか。また、中間駅や沿線のまちづくりなど具体像が見えてこない問題も残っております。これらの点もあわせて市長にお伺いしたい。

2点目ですが、本年度からさいたま市では民間の放課後児童クラブへの委託料や家賃補助額を増額し、さらに民間施設を利用して児童クラブを整備する際の整備費補助金を新設しました。現在、この新たな制度を市が決定してまだ間もないですが、これまで市が委託する民間クラブ、昨年度に比較して何件ほどになるのか、また待機児童数の減少が改善された点などがありましたらお聞かせください。

○ 市長

それでは、まず埼玉高速鉄道についてであります。4月9日の浦和美園駅周辺地区、いわゆるウイングシティのまちびらき、そして大型連休前のイオンショッピングセンターのオープンに伴いまして、利用客や従業員など多くの方々が埼玉高速鉄道を利用され、前年の同時期と比較いたしましても1日当たり5、6六千人程度、昨年が2千人から3千人、ことしは7千人から9千人ということで、乗客数がふえているというふうに伺っています。

また、浦和美園駅の1カ月間の乗客数も、昨年の約11万8千人に対しまして、ことしは30万8千人と前年比260%と聞いておりまして、経営改善に大きく寄与をしているだろうというふうに思います。

さいたま市といたしましてもですね、埼玉県及び沿線市とともに埼玉高速鉄道（株）に対し財政支援を行ってございまして、埼玉高速鉄道（株）の経営の早期安定化は重要な課題でございますので、都市再生機構と協力をして、駅周辺のまちづくりに一層力を注いでまいりたいと考えております。

また、ご質問の中間駅や沿線のまちづくりにつきましても、豊かな田園環境や緑地など地域資源を生かしたまちづくりについて検討をしているところでございます。

また、杉野社長さんの続投についてですが、社長人事につきましては6月の株主総会及び取締役会を経て正式に決定をされるわけですが、続投されるということになれば、より一層の経営改善を図っていただけるものと期待をいたしております。

次に、放課後児童健全育成事業についてですが、この育成事業の充実強化につきましても、民営施設における保護者負担の軽減、保育環境の改善及び安定的な運営の確保を意図したものでございます。

まず、保護者の負担ですが、保育料の軽減は増額した市費を全額保育料の軽減に充当していただき、大幅な軽減を図ろうとしたものです。児童1人当たりの市費の平均増額分3,800円に対しまして、低学年の保育料で約6,000円の軽減が図られました。昨年より40%の軽減となっております。今後も児童数の増加が見込まれますので、運営の安定が見込まれるクラブについては、さらに保育料の軽減を図っていただくようお願いをしております。

次に、家賃補助を大幅に引き上げたということや民間施設を利用した施設整備促進補助金を設けたことによりまして、短期間で民設民営による施設整備が進んでおり、6月までに5カ所が新規開設をいたします。

さらに、狭隘で老朽化した施設の保育環境の改善についても効果が出ておりまして、6月までに3カ所の分離、1カ所の移転を実現をし、児童1人当たりの保育面積の改善などに着手がされております。このことによりましてですね、市が委託をしている民設の放課後児童クラブは平成17年度は45カ所でしたが、18年6月1日現在の見込みでは57施設ということになります。

待機児童数につきましては、公設のクラブで待機となった児童のうち民設

のクラブに入室した児童との突合作業が終了していないことから、現段階では申し上げられませんが、公設、民設合わせた入室児童数で比較をいたしますと、17年の4月1日では5,328人、公設で3,491人、民設で1,837人、18年4月1日現在では5,621人、公設3,517人、民設2,104人となっております。昨年度に比較をして293名の増員が図られているということでございます。

公設のクラブで待機ということになった子供がですね、民設にずっと行くわけです。その民設に入った数が、民設の保育園の方からついこの間その報告がまだ来たばかりで突合が済んでいないもんですから、正確な待機数というのはちょっとまだ申し上げられないんですけれども、ある意味ではかなり改善はされているのかなという感覚でとらえています。

以上です。

- 産経新聞 幹事社質問に関連して質問があればどうぞ。  
それでは、幹事社質問関係なく、質問があれば。
- 読売新聞 一つだけ。新都心のタワーの予定地だったところですが、誘致に失敗して、その後の利用計画というか、その後はどうなっていますでしょうか。
- 市長 まだ具体的に何をつくらうとか、そういう段階には至っておりませんが、いわゆる地権者ですね、県、それから市、それから推進機構か……URね。この3社でね、協議を始めるという段階であります。何かあれば。
- 助 役 事務的には連絡会というような形でですね、協議を今進めているという状況です。
- 読売新聞 連絡会というのは、タワー誘致のころからある連絡会なんですか、それとも失敗してから新たにつくった連絡会。
- 助 役 あれは別につくったもの、別につくった。
- 読売新聞 何度かもうその場を設けているんですか。
- 助 役 複数回か1回かちょっと忘れましたが、協議はやっています。
- 読売新聞 それは、これからの利用目的について話し合っていると。
- 助 役 利用目的とか具体的な見方とか、連絡とかの面も含めての今後についてというふうな考え方になろうかと思えます。
- 産経新聞 ほかによろしいでしょうか。  
それでは、これで終了いたします。どうもありがとうございました。

